

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：36008

「学ぶ力」	
成果	課題
<p>◇全国学力・学習状況調査の生徒質問の結果から、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」という実態がある。</p> <p>◇ICTを活用した情報収集や意見交流等を行うことで、生徒の伸びを実感する場面が増えてきていることが、共通指標から明らかになった。</p>	<p>◇札幌市の共通指標から、「自分の意見を進んで発言しようとしている」生徒の割合が7割台であり、他の項目に比べると低い。</p> <p>◇「自分で計画を立てて勉強している」生徒の割合が直近3年間で減少傾向にあり、見直しをもって、課題解決のために自主的に取り組む姿勢が乏しく、家庭学習の習慣が定着していない実態を捉えることができる。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇札幌市の共通指標の「人のよいところを見つけようとしている」「人の役に立ててうれしいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目において肯定的な回答が95%以上、「自分が必要とされていると感じる」の項目において、肯定的な回答が3年連続増加傾向にある。生徒同士による行事後の相互評価の場を設定していることが影響していると思われる。引き続き、自分に自信がもてるような場や価値づけが重要と考える。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
<p>(1) 研究主題「特別活動における主体的・対話的な深い学び」の実現</p> <p>(2) 各学年で育みたい力を確認し、学年の取組1つを考え学年で実施する。</p> <p>(3) 「5つのポイント」や「AARサイクル」の視点で指導計画を立てる。</p> <p>(4) <u>生徒のリフレクションとともに、取組の反省や来年度に向けた課題を確認する。</u></p>	<p>①よりよい学校にするための生徒会活動の充実</p> <p>→<u>学校生活に関する事柄を議題にした生徒総会</u>の実施</p> <p>→年間活動計画と報告を<u>発表する場</u>を設ける（年2回）</p> <p>②自分たちの生活を振り返る場の設定</p> <p>→毎月の委員会で<u>今月の成果と来月の課題を確認する。</u></p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
<p>◇(3)の特に「人と学び合う方法」について、また、AARサイクルにおいては題材に合わせて課題解決に向け対話したり、考えをまとめて発表する場面などにおいて活用する。</p> <p>◇①や②ではGoogleフォームを使用し意見を集約・調査・分析したり、コメント機能を用いて意見交換を行ったりする場面などにおいて活用する。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

